

聞 ・ 聞 ・ 聞

発行責任者 浄土真宗本願寺派 正善寺 住職 酒井光義 平成25年3月11日

〒802-0045 北九州市小倉北区神岳二丁目 10 番 31 号 電話 093 (541) 2409 番



亡くなったから会える

人間として生まれたという物語(意味)、生きるということの物語を私たちはなかなか持ち得ません。ましてや死んでいくということの物語など持てないものです。

死ぬことを「他界した」とか、「天国へ行った」などと言います。仏教をいただく者は天国という言葉は使わないほうがいいでしょう。天というのは仏教ではまだ迷いの世界です。亡くなった人に対して、まだ迷っていると言うのは失礼です。

一方、他界したというのは、行方不明だということです。普通の旅行だったら、京都だの東京だのと行き先を言って行きますけれど、最後にうちの主人は行方不明になりましたということです。誰も行き先を確かめたわけじゃないのですが、他界したと言うだけでは、どこへ行ったかわからないということです。

一休さんの歌に「死にはせぬどこにも行かぬここにおる尋ねはするなものは言わぬぞ」とあります。浄土真宗ではお念仏の世界にいつも帰ってきてくれている、ここにおいて、一緒に生きているんだという感覚を、お念仏を通していただくわけです。本当にお念仏の世界がうなずけてきたら、浄土から南無阿弥陀仏と便りをいただくのです。決して行方不明ではないのです。広島大学の教授をされていた白井先生という方が、遺言で娘さんに「父のことを思い出したら念仏しておくれ、父はお念仏の中に生きているからね」といわれたそうです。

百三歳になるおばあさんが、「死にたい、死にたい」と言っている。私は長生きし過ぎて、子どもたちもみんな亡くなって寂しい、としきりに嘆いています。物事を对象的に見ることだけを確かなものとする人たちにとっては、親しかった人が見えなくなっていくことが寂しいわけです。

しかし仏法をいただく人であれば、念仏でいつでも出会えるのです。あるお坊さんの歌に「往きし人みなこの我に還りきて南無阿弥陀仏と称えさせます」というのがあります。亡くなった人たちが私の口から南無阿弥陀仏と仏になって出てくれている、こう味わうわけです。親しかった人たちが死んでいっても、決して寂しいことはない。今まで遠く離れて暮らして会えなかったけれど、亡くなったことを縁にいつでも会える、そういう世界が恵まれているのです。

田 畑 正 久 ー生きることの物語ーより



鐘楼堂修復工事終了

24年年末、念願でありました鐘楼堂の修復工事が無事完了し、心新たな思いで除夜の鐘を撞くことができました。ご門徒の皆様の多大のご懇念をいただき、心よりお礼申し上げます。
住職・総代一同

年末からのトピックス



修復完成報告法要にて



年末忘年会



保育園年長児のお茶席



小倉組ボーリング大会

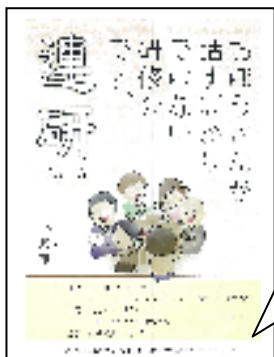


新たな取り組み 何をしているのでしょうか？

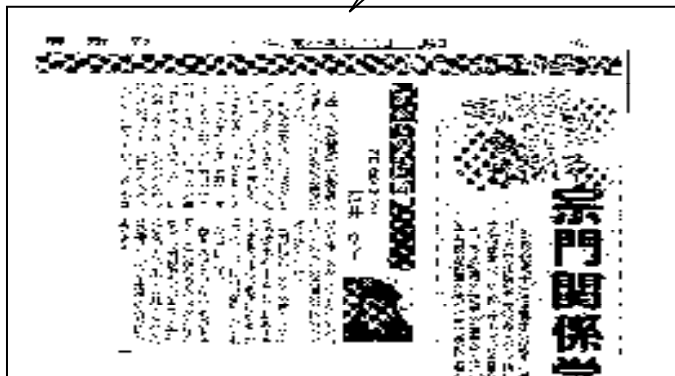
小倉組連続研修会への参加はいかが？

連研とは、普段皆さんが思っている仏教に関する疑問、知りたいこと、興味のあることを中心に12の問いを設け、僧侶も参加者も同じ輪にはいり、それについて自由に語り合う連続研修会です。

本願寺新報に掲載されました。全国の皆さんに見ていただいております。うれしいです。



5月25日より開始です。後の日程も決まっています。パンフをどうぞ



参加ご希望の方は、お寺までお申し込みください

ご 案 内

と き 平成 25 年 3 月 19 日より 20 日まで

春 季 彼 岸 法 要

	19日(火)	20日(水)
昼 席	午後1時30分	午後1時30分
夜 席	午後7時30分	

講 師 (山口県小郡市) 蓮光寺住職

本願寺派布教使 岡本達美 師

どうぞお誘いあわせのうえお参り下さい。

お寺よりのお願い

3 月 16 日 (土)

10:00より15:00まで

彼岸法要の準備をいたします。
納骨堂の清掃・本堂の清掃と荘厳
をいたします。お集まりください。
お昼を用意しています。

ネエネえちよつとおたずね？

お仏壇のお花の高さはどれくらい？

花をさす器(花瓶-かひん)の高さの約1.5倍位が
美しく見えますよ。個々の花の高さも変えると綺麗です。

お 詫 び

前号の年回法要の案内の中で
二十五回忌(平成2年往生)としていましたが、
正しくは(平成元年往生)です。訂正いたします。

「お寺でヨガ」始めました。 毎週火曜日(月-3回)

19時~21時 年齢制限・男女制限 全くありません。
お寺の本堂で、音楽とアロマで外側から、ヨガで内側からリフレッシュ！
ゆっくりとした呼吸を体験し、今ある自分の身体を感じてみませんか。
春から一つ、新しいこと、始めてみるのもいいかも。お待ちしております。

4月8日は「お釈迦様の誕生日」みんなでお祝いしましょう

花まつり・甘茶接待

【日時】4月8日(月)午前11時より午後1時まで【会場】正善寺・神岳保育園玄関前

初参式 (しょさんしき) 正善寺本堂にて

【とき】6月2日(日)午前11時開始

小さいお子様がお寺の仏様の前で初めてのお参りをする儀式です。最近生まれたお子様はぜひ参加しましょう。家族でおいで下さい。お待ちしております。

次回の法要のご案内 永代経法要

【とき】6月1日(土) 昼席・2日(日) 昼席 (昼席2日間)

【講師】 当山 正善寺 住職 酒井光義

編集後記

すっかり、春らしくなってきました。皆様お元気でお過ごしでしょうか。お寺の中は今、木蓮、れんぎょ、チュウリップ、椿と春の花をたくさん生けさせていただいています。「坊守さん、お花すばらしいですね」と大好きだったYさんのお声が聞こえてきそうです。Yさんがお浄土に還られて二か月がたちました。私が心落ち込んだ時、自信を無くして、とても自分が小さくみえる時、泣きたい時、不思議とYさんから、お手紙をいただいていた。いつも、便箋数枚いっぱいにはげましの言葉を書いて下さっていました。ああ私は私のままでいいんだと立ち上がり下さるように「さあ、坊守さん」とあたたかい手をさしのべて下さっているようでした。いつもしていただくばかりの私でした。お寺の花入れは花の片づけ、仏様の花入れ、会館の花入れ、掃除、半日以上かかります。大変だなと思う時もありますが、「坊守さん、お花すばらしいですね」の声が今も私に届けられている気がして、Yさんが喜んで下さっている気がして、「大変なことが、ありがたい、うれしい」と思います。出遇わせていただいた喜び、この世でのお別れの悲しみ、すべてがありがたいご縁であると教えていただきました。最後にいただいた、お手紙の中の言葉「花野路という言葉が好きです」と。心にひびきます。「生きています。あなたに教わったこと。生きる喜び、人としての弱さ、強さ、あなたに教わった全てが私の中で生きています。ずっと生き続けます。」

春のお彼岸法要、園児の描いたあたたかい仏さまの絵と春のたくさんのお花の中で勤めさせていただきます。どうぞたくさんお参り下さいませ。

合掌